こんな本があります

渋谷区関係絵図の本

資　料　名	出 版 者	出版年
絵図の復刻版		
東都青山絵図（金鱗堂尾張屋板 嘉永６年）	渋谷区教育委員会	2003
東都青山絵図（金鱗堂尾張屋板 嘉永６年）	岩崎美術	2006
千駄ヶ谷鮫ヶ橋 四ッ谷絵図（金鱗堂尾張屋板 嘉永３年）	渋谷区教育委員会	1994
渋谷宮益金王辺図（近吾堂近江屋板 嘉永４年）		
甲州道中分間延絵図（文化４年）	東京美術	1978
渋谷を一部でも含む切絵図『東都青山絵図・千駄ヶ谷鮫ヶ橋 四ッ谷絵図・内藤新宿千駄ヶ谷辺図・目黒白金図・東都麻布之図』の復刻版を収録する本		
嘉永慶応江戸切絵図（東都青山絵図は安政４年）	人文社	1977
江戸切絵図集成	中央公論社	1981
現代の地図と絵図が比較できる本		
復元・江戸情報地図（安政３年分間江戸大絵図）	朝日新聞社	1994
江戸東京大地図	平凡社	1993.
切絵図・現代図で歩く江戸東京散歩	人文社	2002
切絵図・現代図で歩くもち歩き江戸東京散歩	人文社	2003
江戸切絵図と東京名所絵	小学館	2002
江戸復原図（1/5000 都市計画図に幕末の町割りを落としたもの。渋谷区部分は少ない）	東京都	1989

このほかにも絵図に関する本はたくさんあります

しぶや、あの日 あんなこと そして こんな本
― 渋谷区地域資料通信 ３ ―
2019年３月20日
編集/発行　渋谷区立中央図書館　　㈱図書館流通センター
渋谷区神宮前 1-4-1　　3403-2591
図書館ホームページ＞しぶやのページ
https://www.lib.city.shibuya.tokyo.jp/?page_id=209

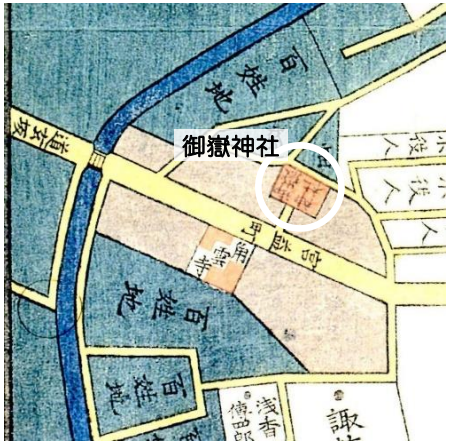
しぶや あの日 あんなこと そして こんな本

渋谷区地域資料通信 ３

絵図のなかの渋谷

作家が江戸絵図を参考にして江戸の街並みを描くことはよく知られていますが、江戸時代には江戸大絵図をはじめとする数多くの地図としての絵図が作られ、かなり詳細な当時の姿を伝えています。また江戸後期に出版された地域別の江戸切絵図には細かな屋敷や寺社などの名称まで掲載されていて、さしずめ江戸時代の住宅地図のようです。切絵図は実用の案内地図としてばかりではなく江戸の土産ものとしても喜ばれ、いくつもの板元によって出版され版を重ねました。なかでも金鱗堂尾張屋の出版した切絵図は江戸を網羅し錦絵風５色刷りの美しいものです。

当時の渋谷区域は江戸御府内のきわにあたり、大江戸図ではその隅に一部分が残るにすぎませんが、切絵図の『東都青山絵図』では道玄坂、渋谷駅あたりを含む渋谷川両岸地域から現在の青山通り方面が描かれ、青山学院大学になった伊予西条藩松平家の上屋敷、都電青山車庫を経て国連大学・旧こどもの城になった山城淀藩稲葉家の下屋敷などの大名屋敷や現在に残る寺社、宮益坂・道玄坂などが描かれています。また近吾堂近江屋板の『渋谷宮益金王辺図』では渋谷から恵比寿方面に当たる部分が載せられています。



柴田錬三郎の『眠狂四郎無頼控』には狂四郎が渋谷宮益町の御嶽神社を訪れるシーンがあります。絵図と見比べながら、その道筋を辿ってみるのも面白いのではないでしょうか。

絵図のなかの渋谷

葛飾北斎画　冨嶽三十六景『隠田の水車』

隠田の水車

葛飾北斎が『冨嶽三十六景』の中で、渋谷川の上流部にあたる穏田川に掛けられた水車を前景に富士を描いています。この水車は原宿村の村越水車であろうといわれています。

和泉岸和田藩岡部家下屋敷 ➡ **国立代々木競技場**

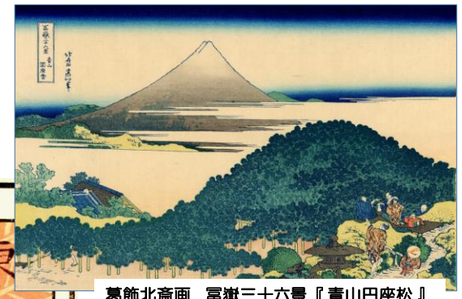
和泉国岸和田を領した岡部家の下屋敷が元禄15年（1702）から明治維新までありました。この下屋敷は「通明観」といい江戸に名高い庭園の一つでした。その一部であった岡部ヶ池は昭和の初期まで残っていました。
この地は戦前の代々木練兵場にあたり、戦後はワシントンハイツの一部となり、前回の東京オリンピックを機に国立代々木競技場になっています。

上野高崎藩松平家抱屋敷 ➡ **中央図書館・原宿外苑中学校・原宿警察署・東郷神社**

天保6年（1835）から嘉永2年（1849）までは上野高崎藩松平家の抱屋敷で、嘉永2年から明治維新までは石見津和野藩亀井家の抱屋敷でした。
この地には戦前、海軍館や東郷神社・池田邸があり、戦後は社会事業大学を経て中央図書館・原宿外苑中学校・原宿警察署・東郷神社などになっています。

明治通り

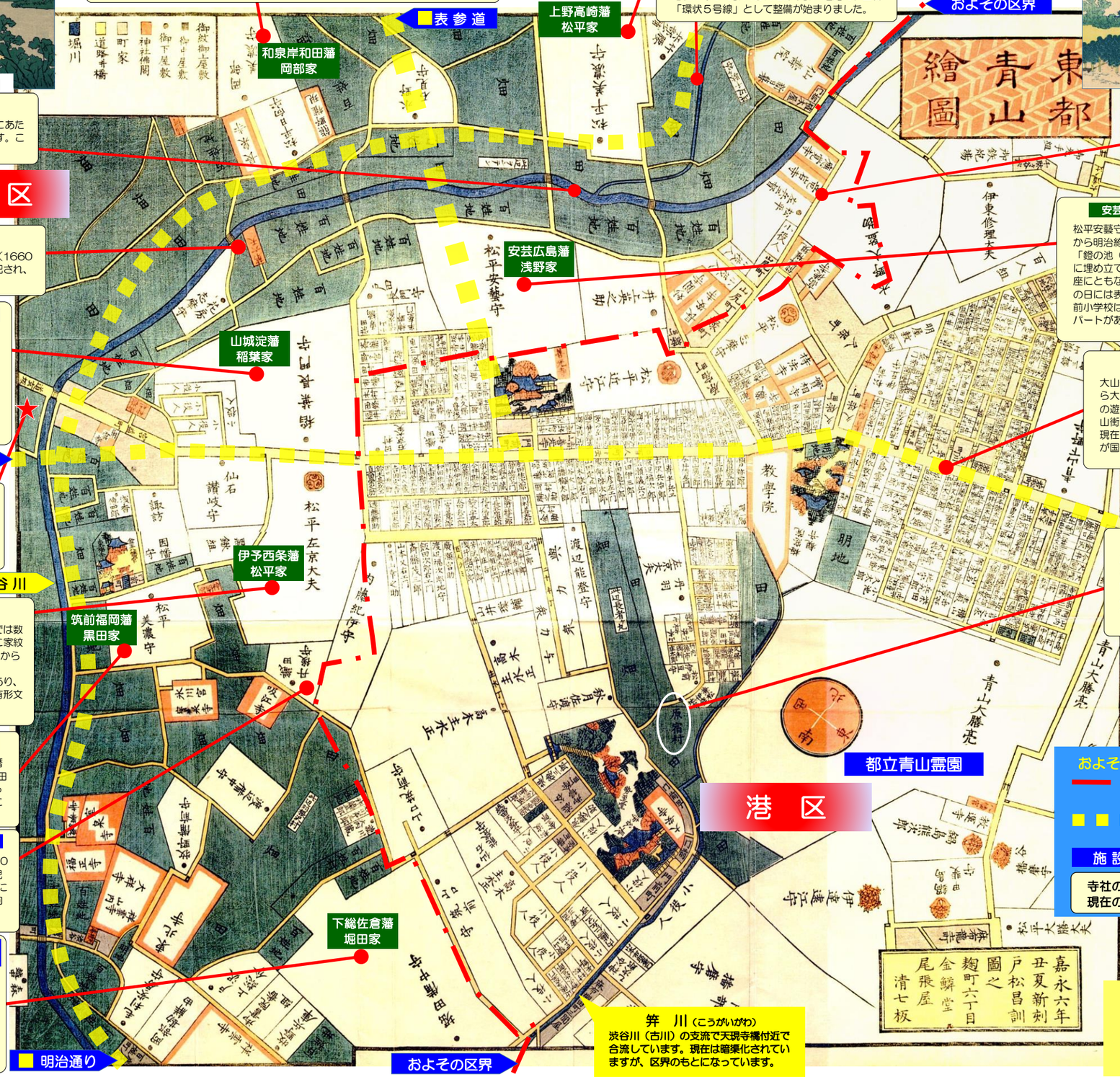
昭和になって計画された都市計画道路で、当初「環状５号線」として整備が始まりました。



葛飾北斎画　冨嶽三十六景『青山円座松』

青山円座松

龍岩寺境内にあった円座の松は江戸近郊の名木として知られ、北斎は鋭い三角の富士と半円の笠松を対照的に描いています。



第六天社 ➡ **穏田神社**

第六天社の草創は詳らかではありませんが、寛文年間（1660年代）の地図には記載のある古社です。熊野権現が合祀され、現在の穏田神社にあたります。

山城淀藩稲葉家下屋敷 ➡ **国連大学**

山城国淀を領した稲葉家の下屋敷が明暦3年（1657）から明治維新までありました。屋敷地はその形状にちなんだ琵琶池がある名庭園として知られており、この庭園について木田好座という藩士が『御露路草案』という一文を残しています。琵琶池は今も残ります。
現在この地には国連大学本部などがありますが、以前にはこどもの城や青山病院などもあり、その前には都電の青山車庫や梨本宮邸などがありました。

JR渋谷駅

現在のJR渋谷駅はほぼこの位置にあたります。渋谷駅は明治18年（1885）の日本鉄道会社による品川から赤羽までの路線開通とともに、今より少し南の位置に渋谷停車場として誕生しました。

伊予西条藩松平家上屋敷 ➡ **青山学院大学**

この松平家は御三家の紀州徳川家の分家であり、区内では数少ない大名上屋敷の一つで、そのことは絵図の屋敷地に家紋が記されていることでわかります。元禄8年（1695）から明治維新までありました。
現在この地には幼稚園から大学までそろう青山学院があり、構内の「間島記念館」や「ベリーホール」は国の登録有形文化財になっています。

筑前福岡藩黒田家下屋敷 ➡ **渋谷図書館**

松平美濃守は福岡の黒田家のことで、その下屋敷が宝暦10年（1760）から明治維新までありました。藩祖黒田長政の墓は区内の祥雲寺にあり、区の指定文化財になっています。この地は現在、渋谷図書館などがある一帯にあたります。

大和芝村藩織田家下屋敷 ➡ **常陸宮邸**

この織田家は信長の弟有楽斎の流れをくむ家で、文政10年（1827）から安政まで、その後維新までは薩摩鹿児島藩島津家の下屋敷になりました。13代将軍徳川家定に嫁いだ、のちの天璋院篤姫はこの屋敷から江戸城へと向かいました。現在、常陸宮邸がある一帯にあたります。

下総佐倉藩堀田家下屋敷 ➡ **日赤医療センター 聖心女子大学**

堀田家は多くの老中を輩出した譜代大名で、延宝年間（1670年代）からこの地に下屋敷を設けていました。現在の日赤医療センターや聖心女子大学などがある一帯で、広尾ガーデンフォレストの敷地内にある「大銀杏」は区の指定天然記念物になっています。聖心女子大学内の「パレス」はかつての久邇宮邸の一部で、国の登録有形文化財になっています。

安芸広島藩浅野家下屋敷 ➡ **表参道を含む一帯**

松平安藝守は広島の浅野家のことで、その下屋敷が寛文4年（1695）から明治維新までありました。屋敷内にはその形から名付けられた「鐙の池（のちに穏田の池）」がありましたが、表参道を造成する際に埋め立てられました。表参道は大正９年（1920）の明治神宮の鎮座にともない、青山通りから神宮へ向かう参道として設けられ、冬至の日には表参道の先から朝日が昇るという設計になっています。神宮前小学校はこの敷地にあり、表参道ヒルズができる以前には同潤会アパートがありました。

大山道 ➡ **青山通り～玉川通り**

大山道は赤坂御門から青山・宮益町・道玄坂を経て相模国厚木から大山の石尊権現（現阿夫利神社）に至る道で、参詣人や玉川への遊覧道として知られ、宮益坂下には一里塚がありました。『大山街道絵図』の渋谷部分が『図説渋谷区史』に収録されています。現在は前回の東京オリンピックなどを機に拡幅整備され、大部分が国道246号線として幹線道路になっています。

原宿村

原宿は『小田原衆所領役帳』という戦国大名北条氏の文書に登場する古い地名です。かつては広い地域に及んだものが武家地や町地の広がりによって分断され、この辺りは港区域にあった原宿村の飛地で、明治22年（1889）の市町村制施行までは原宿村でした。

笄　川（こうがいがわ）

渋谷川（古川）の支流で天現寺橋付近で合流しています。現在は暗渠化されていますが、区界のもとになっています。

渋谷区教育委員会復刻の
『江戸切絵図「東都青山絵図」』より
金鱗堂尾張屋清七板　嘉永6年（1853）
所蔵：地域資料　S17